第６７２号　令和４年（2022）２月３日発行

千葉教育

菜
令和３年度
No.６７２

千葉の子どもたちの未来のために

特集　外国人児童生徒等の教育の充実

○シリーズ　現代の教育事情

千葉大学名誉教授　新倉　涼子
県教育庁教育振興部学習指導課
船橋市教育委員会指導課

○提　言

ソースネクスト株式会社　取締役専務執行役員　藤本　浩佐

千葉県総合教育センター

目　次

◆学校自慢　「学校大好き」楽しく学ぶ児童の育成を目指して　すべての子供たちをすべての教職員が見守る学校
布施学校組合立布施小学校長　相場　俊秀
◆提言　学校教育現場の多国籍化とAI通訳機の導入について
ソースネクスト株式会社取締役専務執行役員　藤本　浩佐…2

シリーズ　現代の教育事情　外国人児童生徒等の教育の充実

■求められる教師の異文化対処能力　千葉大学名誉教授　新倉　涼子…4
■外国人児童生徒等教育の充実を目指して　県教育庁教育振興部学習指導課…6
■船橋市の帰国・外国人児童生徒への支援　船橋市教育委員会指導課…8

私の教師道

■学校を創る　大きな理想と小さな徹底～対極を意識した年輪経営～
白井市立大山口中学校長　髙橋　紀子…10
■学校を支える　子供たちへの良い影響と新しい学校生活様式～大人がタッグを組んで雰囲気づくり～
木更津市立清川中学校教頭　髙橋　健悟…12
■学校を動かす　調整力を働かせること
県教育庁北総教育事務所指導主事（前県立船橋法典高等学校主幹教諭）　菅　太郎…14
■子供を知る　幼児理解をする大切さ　市川市立大洲幼稚園教諭　柿原　香澄…15
■子供を知る　給食を「食の教材・授業」として活用する　松戸市立矢切小学校技師（栄養士）　潮田　萌恵…15
■授業を創る　理科学習における考察の場面を充実させるために～視点を明らかにした指導～
四街道市立吉岡小学校教諭　中村　光宏…16
■授業を創る　「肯定的な自己理解」を目指した、特別支援学級での授業の工夫
大網白里市立大網中学校教諭　行木　陽子…18

活・研究

■令和２年度長期研修生の研究の概要　令和２年度長期研修生…20

ケーススタディ

■不登校の現状と支援の在り方について　和洋女子大学特任教授　柴内　靖…24

幼児教育の現場から

■「遊び」の中の「学び」　富里市立富里幼稚園長　秋葉　利恵…26

教育の情報化

■今年度の研修を振り返って～１人１台端末の利活用の促進を目指して～
県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当…27

情報アラカルト

■「自立活動コンテンツ作成事業」について　県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事　髙梨美佐子…28
■研修履歴システム「Asttra（アストラ）」の履歴活用方法と研修支援機能について
県総合教育センター研修企画部…30
■校内研究ガイドブック～校内研究モデルプラン～　県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当…32
■令和３年度マリンサイエンスギャラリー「千葉県エビ・カニ大集合！」　県立中央博物館分館海の博物館…33

学校　NOW！

■我が校の実践　大網白里特別支援学校の地域支援について　県立大網白里特別支援学校教諭　河名　俊…34
■学校歳時記　学習形態をめぐる蓄積と融合　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の求め
千葉大学名誉教授　天笠　茂…36
◆発信！特別支援教育　エージェンシーの発揮を目指した教育開発－領域「私の時間」の新設を通して－
県立特別支援学校流山高等学園教諭　古江　陽子…38
◆千葉歴史の散歩道　片歯の梅　県教育庁教育振興部文化財課文化財主事　佐山　淳史

道　　標

近年、グローバル化の進展等により、我が国に在留する外国人は増加の一途をたどっており、それに伴って外国人児童生徒の数も増加している。文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）」によると、全国の公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数はこの10年間で約1.5倍と急増しており、本県においても同様の傾向が見られる。また、平成31年４月には「改正出入国管理及び難民認定法」が施行されるなど、外国人受入れに関する要件の緩和が進んできており、外国人児童生徒等の更なる増加が見込まれる。

これら外国人児童生徒等の受入れや指導体制の構築並びに外国人児童生徒等の教育については、文部科学省や地方公共団体において進められており、各学校においても指導や支援の充実に取り組んでいるところである。しかしながら、教育環境に係る様々な問題も指摘されるなど、それぞれの地域の実情に応じたきめ細かな支援が必要となっている。

本号の特集が、外国人児童生徒等に対する教育の更なる充実に向けた一助となれば幸いである。

【お詫びと訂正】梅号15ページの筆者名のふりがなに誤りがありました。お詫びしますとともに、次のとおり訂正します。
（誤）高橋　松子（たかはし　まつこ）　→　（正）高橋　松子（たかはし　しょうこ）

提言

学校教育現場の多国籍化とAI通訳機の導入について

ソースネクスト株式会社取締役専務執行役員　藤本（ふじもと）　浩佐（こうすけ）

1　日本の学校教育を取り巻く環境

超高齢化が進む日本では、労働力不足を補うため、外国人労働者の受入れは増加の一途をたどり2016年に100万人を突破、2020年には172万人を超え、過去最高を更新しました。学校教育の現場では今、来日する外国人労働者の子供たちの受入れが課題となっています。状況を難しくしているのは児童生徒の多国籍化です。その解決策の一つとして、AI通訳機「ポケトーク」の導入が教育現場でも進んでいます。

2　AI通訳機「ポケトーク」とは

AI通訳機「ポケトーク S」

弊社の「ポケトーク」は、互いの言葉を話せない人同士が自国語のままで対話できるAI通訳機です。61言語を音声・テキストに翻訳し、21言語をテキストのみに翻訳できます。多言語に対応できることから、新型コロナウイルス感染症の拡大以前には、インバウンド・アウトバウンド、外国人労働者とのコミュニケーション・ツールとしての需要が増え続け、教育現場に限らず鉄道などの公共機関や小売店など多種多様な企業で、加速度的に導入が進みました。これにより、「ポケトーク」は2017年12月の発売以来、2021年９月14日時点で累計出荷台数は90万台を突破、一気に浸透していきました。

3　教育現場の多国籍化

厚生労働省発表「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ」によると、2020年10月時点で、日本で働く外国人労働者の国籍はベトナム25.7％、中国24.3％と、この２か国で半数。次いで、フィリピン10.7％、ブラジル7.6％、ネパール5.8％と、英語圏以外が多数を占めています。こういった外国人労働者は、家族をともなって移住してくるケースも多く、先に述べた、児童生徒の多国籍化が進んでいるのです。

その例として、「愛知県知立市の市立知立東小学校で、新年度の新入生49人中41人が外国籍になる見込みになった。」というニュースが報じられました（2019年２月18日、朝日新聞デジタルより）。

「ポケトーク」は、日本各地の教育現場で導入され、私たちが把握しているだけでも、小・中学校1,600校以上を数えます（2020年７月時点、弊社調べ）。コロナ禍以前は外国人労働者が多い東海地方のいわゆる中京工業地帯の教育現場で数百台規模の導入例もありました。「ポケトーク」の普及は、コロナ禍

で一時的に足踏みしていた時期もありましたが、依然として行政窓口や病院、教育機関では高い需要を保ち続けています。教育現場への導入は市区町村で一斉に導入されるケースもあり、例えば2020年に東京都江東区の全幼稚園、同板橋区の全保育園、大阪市立の全幼稚園と市立保育所を含む児童福祉施設、2021年には東京都八王子市の全認可保育園、幼稚園、認定こども園でも採用いただいています。

4　「ポケトーク」の教育現場での利用用途

教育現場での「ポケトーク」の利用用途は、

⑴教員と外国人児童生徒とのコミュニケーション

⑵教員と外国人児童生徒の保護者とのコミュニケーション

⑶教員とALT（外国語指導助手）とのコミュニケーション

が挙げられます。

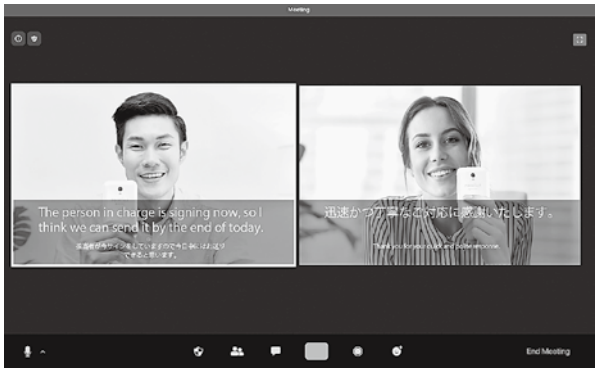
⑴は、子供の間で起こるけんかなどの原因の把握、給食においてアレルギーや好き嫌いの確認などをしたいという声が現場から聞かれます。

⑵は、幼稚園・保育園の送迎、小・中学校では給食や掃除など、外国にはなく理解が難しい日本独自の文化や制度の説明を行う際、両者とも母語ではない英語を用いての会話より、「ポケトーク」を用いて互いの母語で会話ができる意義は大きいと考えます。

5　今後の展望

アフターコロナを見据え外国人労働者の需要が再燃し、教育現場での「ポケトーク」のニーズはますます高まっていくと見込んでいます。

これまで対面で使われてきた「ポケトーク」は、コロナ禍の中で、日本において急速に普及したリモート会議や商談、ウェビナー、動画配信等のオンライン上の「言葉の壁」をなくすべく進化し、2021年９月に無償アップデートにより新機能「ポケトーク字幕」の提供を開始しました。本機能は、ポケトークで翻訳した結果を、パソコンのWebカメラに字幕のように合成できるというものです。



「ポケトーク字幕」

教育現場においてもオンライン授業やハイブリッド授業が導入され、どのように授業を行っていくのか、頭を抱えられた先生方も多くいらしたことと思います。本機能を使うことで、先生が日本語で授業を行い、「ポケトーク」で翻訳した結果を字幕表示することでその内容を伝えることができるようになります。

今後も日本の少子高齢化は続き、これまで以上にAI通訳機が教育現場において重要なコミュニケーション・ツールになっていくと考えます。「ポケトーク」は発売以来、ソフトウェアの更新により機能の追加や性能の向上を図り、進化し続けています。弊社は今後も、「言葉の壁をなくす」というミッションの実現に向けて、この取組を続けていきます。弊社の「ポケトーク」が、教育現場に存在する言葉の壁をなくすための一助となることを願ってやみません。